



本学会は1996年4月に設立され、今年2020年は25年目となりました。ニュースレター51号では、25年の活動を振り返ってみたいと思います。

祝
設立 25 年 特集号

■ 歴代理事長からのメッセージ — 聖路加看護学会25年目に向けて —

常葉恵子先生(初代理事長, 設立時 1996 年 4 月～2002 年 9 月)



～ニュースレター第1号に掲載された「あいさつ」から一部抜粋して掲載します～

昨年(1996年)4月13日に聖路加看護学会が発足し、新校舎落成式の翌日の9月15日に第1回学術大会を開催しました。大会のメインテーマは、「建学の精神の具現化と軌跡」とし、全国から262人の方々が出席されました。なごやかでエネルギーに満ちた会場の雰囲気からこの学会の誕生が、期待されていたことを強く思われました。

学会は、聖路加看護大学が追求し続ける看護とは何かを、研究活動を通じて世の中に示していく責任と役割が課せられていると思います。

学術大会と同様にこのニュースレター、そして6月に発行される学会誌は、会員の主体的参加の場として開かれています。皆様からのご意見やご要望などで内容を充実していきたいと思います。そして、この学会を会員一人ひとりの力で育て創りあげていきたいと願います。

会員の周りの方々に学会の入会へのお勧めをよろしく願いいたします。

菱沼典子先生(2002年10月～2005年9月)



聖路加看護学会25年目、おめでとうございます。発起人会は旧校舎、設立は新校舎ができた1996年でした。新校舎落成式の翌日に第1回学術大会を催したことは、聖路加が看護を学として発展させる覚悟の表われだったと思えます。その頃活躍された先達で、この25年の間に世を去られた方々を思い、感謝を捧げます。

修士論文や博士論文をはじめ、他誌で取り上げられないような挑戦的なテーマの論文、様々な研究手法の論文が集まり、21世紀COEプログラムのPeople-centered careの研究成果も、多く本学会誌に発表されました。研究発表の場をつくらうと設立した25年前に比べ、研究環境は大きく変化しています。日本学術会議に登録し、法人化もしました。設立の趣旨を踏まえながら、本学会の強みを生かし、看護の学術にどう貢献しているかが見える学会になって欲しいと思っています。そしてこれからも、看護の学と実践に影響する、質の高い論文が発表され続けることを、心から願っています。

田代順子先生(2005年10月～2008年9月)



聖路加看護学会の創立25年目とのこと、これまでの学会の発展にかかわった会員と共に祝いしたいと思います。聖路加看護学会で、常に、会員相互の学術的研鑽、および交流ができ、個人的には、聖路加看護学園での学びを確認し、滋養され、看護専門職としてパワーをもらってきたと振り返っております。

私は、学会創立10年目～3年間、理事長を務めました。当時、様々な専門看護学会が創立され、本会員でもある太田喜久子先生が日本看護系学会協議会の会長をされていた関係で、事務局を聖路加看護学会が務めておりました。日本の看護学の発展に聖路加看護学会がどのようなスタンスで学術学会として発展するかを問われていました。専門学会が次々と創立されるなか、聖路加看護学会の方向性は明確にするには難しく、次期理事長の山田先生に繋ぎました。その後、学会は、一般社団法人として、学術大会の開催や、e-学術誌を発行し唯一無二な学会として発展しています。本学会に参加するたびに、多くの聖路加学園の先輩会員からの励ましと一貫した聖路加看護の実践の在り様を確認できることを感謝するばかりです。

山田雅子先生(2008年10月～2016年6月)



「理事長やって勉強なさい！」

私にとって「参加する学会」が「運営する学会」に急展開したのは2008年で、大学教員になりたての頃だった。聖路加看護学会の存在意義を深く考えないまま理事を引き受け、井部俊子氏が当然理事長におなりだと確信していたところ「忙しいから、山田さんおやりなさい」と言われ、当時の新理事の皆様も「そうだそうだ」とおっしゃり、当時の理事長田代順子氏より、学会の将来構想も含めて申し送られ、あれよあれよと理事長に仕立て上げられた。

私が担当した7年間のテーマは何と言っても「法人化」だ。法人の基本を学びつつ、理事の強い意志に支えられながら、あの手この手で会員数を増やし、会計年度の変更と抱き合わせにした法人化スケジュールも皆に無理をお願いしながら、「次に積み残せない」という理事会の意思もあり、評議員の理解を得て何とか目標を達成した。

聖路加看護学会は同窓会の一部ではなく、聖路加が大事にしてきた豊かな看護実践を世界に発信していく拠点として機能してこそ価値があるということを自分に言い聞かせ、それを投げかけ続けた7年間だった。学術性に欠けた自分にその渦中に飛び込む機会を与えて下さった井部俊子氏をはじめ、学会運営の一つ一つを繋いで下さった大先生方に心から感謝である。

松谷美和子先生(2016年6月～2020年6月)



学会創立25年おめでとうございます。スタートから四半世紀が経ち、今や法人として広く開かれた学会となりました。国内外の臨床家、教育・研究者、大学院生、卒業生のだけれども、看護学領域の垣根を越えて集うことのできる聖路加看護学会は、大変貴重な存在です。学会誌の英文抄録はCINAHLで検索され読むことができますが、これからは本文も世界に発信され英文でも読まれる時代になります。常に、新しいことにチャレンジするこの学会が、ますます多くの皆さんに活用され、学会の使命を果たしていくことができるように、これからもエールを送り続けます。

歴代の理事長の皆様、あたたかいメッセージをありがとうございました。

これからも、亀井智子現理事長のもと、看護実践の質の向上と看護学の発展に向け、様々な発信をしていきたいと気持ちを新たにしました。

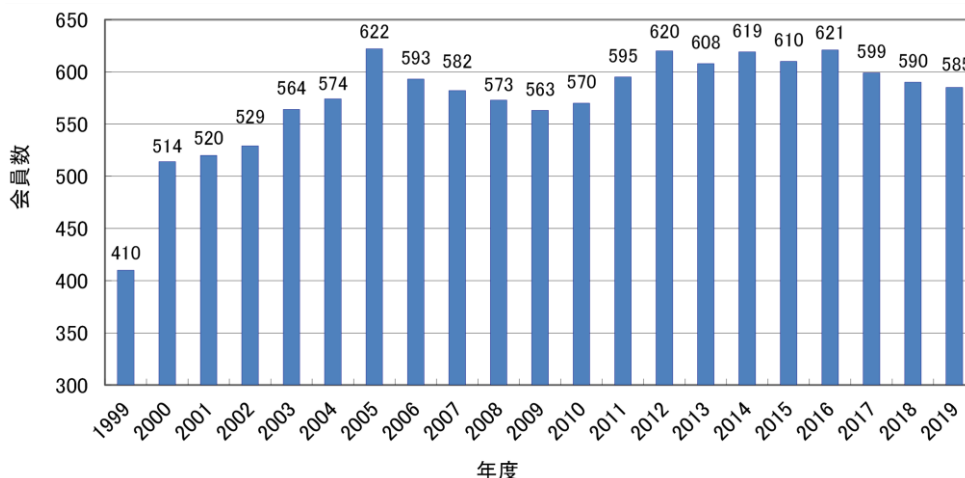
ここからは、様々な視点でこれまでの学会の活動をご紹介します。

■学会設立からの流れ

- 1996年4月 聖路加看護学会設立
- 1997年4月 ニュースレター第1号発行
- 1997年6月 聖路加看護学会誌 第1号発行
- 2001年度 日本看護系学会協議会登録(発足時より登録)
学会誌、聖路加看護大学図書館 SLIU@rchive(リポジトリ)にデータ提供
- 2002年9月 学会ホームページ開設
- 2005年 看護系学会等社会保険連合 設立会議に出席(発足時より登録)
- 2006年9月 日本学術会議協力学術研究団体に登録
- 2008年3月 学会誌発行回数の増加(学会誌2回+学術講演集1回/年)
- 2009年度 15周年事業:看護実践科学研究助成基金と名誉会員制度の創設
- 2010年度 2010年度「研究助成」の採択、名誉会員を承認
- 2011年度 高度実践看護開発検討委員会発足
- 2014年4月 学会誌、オンライン投稿システムにて受付開始
- 2015年4月 一般社団法人化
- 2016年 ニュースレター電子化:No.39よりWeb配信(紙媒体の郵送中止)
- 2020年3月 学会誌、メディカルオンラインに搭載

■学会発足以降の学会員数の動向

2005年以降は、600名前後で推移しています。



■会員としての聖路加国際大学の図書館利用申請者数

聖路加看護学会の会員は、聖路加国際大学の図書館を「準学内利用者」として利用することができます。毎年数名が、学会の会員として図書館を利用しています。

<https://car.luke.ac.jp/guidance/%E6%BA%96%E5%AD%A6%E5%86%85%E5%88%A9%E7%94%A8%E8%80%85-Associate-Member/>

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
登録人数	1	1	0	1	2	4	4	3	1	4	5	3	7	1

注) 図書館の登録は、1年ごとに更新

■ニュースレター第1号の内容紹介

ニュースレター第1号は1997年1月25日に発行されました。内容は、あいさつ・第1回聖路加看護学会学術大会報告・第1回聖路加看護学会総会の報告・学会誌発行準備について・LOBBY「CASE STUDYとRESEARCH」・文献紹介・第2回聖路加看護学会学術大会のご案内・会計から・会員状況・編集後記と盛りだくさんでした。LOBBYの記事の最初に“研究は文献にはじまり文献で終わるといわれています。探していた文献が手に入った時、又良い文献に出会った時のうれしさは格別です。”と書かれていました。会員が図書館を利用できる仕組みをつくった軌跡を感じました。

■学会誌:年間発行回数&掲載論文

第1巻1号(1997)ー第11巻2号(2007) 学会誌1回と学術大会講演集1回
 第12巻1号(2008)ー第16巻3号(2012) 学会誌2回と学術大会講演集1回
 第17巻1号(2013)ー第20巻2号(2017) 学会誌2回
 第21巻1号(2017)ー現在 第1号は電子版のみ、第1・2号(合併号)は冊子体

投稿論文数の増加に伴い、第12巻から学会誌を年2回発行することになり、学術大会講演集の発行と合わせて、聖路加看護学会誌は年3回発行されていました。第17巻からは、学術大会講演集は学会誌とは別に発行することになり、学会誌は年2回の発行となりました。第21巻からは第1号は電子版のみの発行となりました。これまでに掲載された論文数は、原著58本、報告・研究報告93本、実践報告0本、資料23本でした(24巻1号まで:49冊)。報告は、第23巻から、研究報告と実践報告に分かれています。

■看護実践科学研究助成基金(2010～2020年度)

2010年度の基金設立以来、今年度までで27件の研究に助成しています。学術大会での発表25件、学会誌への投稿11論文です。



■ 聖路加看護学会 学術大会テーマ

	開催年度	テーマ	大会長
第1回	1996	建学の精神の具現化と軌跡	常葉 恵子
第2回	1997	実践重視の看護の創造	飯田澄美子
第3回	1998	実践の質を高める看護教育を求めて	藤枝 知子
第4回	1999	ユニフィケーションの方向性を探って	小松美穂子
第5回	2000	在宅看護の源流と未来	氏家 幸子
第6回	2001	『からだ』のわかる看護の探求	菱沼 典子
第7回	2002	看護と文学	井部 俊子
第8回	2003	看護の“知”と哲学的基盤	中山 洋子
第9回	2004	実践の“智”を築く	平野かよ子
第10回	2005	生涯発達と看護	小澤 道子
第11回	2006	病気や障害のある生活と看護	木下 幸代
第12回	2007	少子高齢社会を生きる力、支える力	太田喜久子
第13回	2008	死生観を育む	杉本 正子
第14回	2009	ファーストクラスをめざす道—ケアの未来を拓く—	堀内 成子
第15回	2010	開こう看護の技術箱～臨床看護への貢献	佐藤エキ子
第16回	2011	看護の可能性を拓く—看護実践の高度化と役割拡大	田代 順子
第17回	2012	連携の先にみえるもの—つなぐ看護を科学する—	山田 雅子
第18回	2013	患者と家族の『生ききる』を支える	秋元 典子
第19回	2014	“経験”を語る、聴く、わかちあう	森田 夏実
第20回	2015	教育と実践のハーモニー	松谷美和子
第21回	2016	『多元的ケア』をつくる・つなぐ～看護の可能性	吉田 俊子
第22回	2017	超高齢社会を支える People-Centered Nursing Care の開発	亀井 智子
第23回	2018	看護における「聴く・観る・伝える」技術	野末 聖香
第24回	2019	Implementation Research—実践の場に根差した新たな研究方略の探求	林 直子
第25回	2020	すべてのひとの発達に関わる看護—その人らしい豊かな経験を支える—	平林 優子

■ 編集後記

今年は、学術大会も25回目という記念の年ですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、初めて学術大会の開催が延期され、2021年2月20日から2週間のオンライン開催となりました。例年、秋に発行するニュースレターは学術大会の特集を組んでいましたが、今回は、学会活動25年を振り返る号にしたい、新しい会員の方にも関心を持ってもらえる内容にしたい、と広報委員会のメンバーで話し合いました。歴代理事長の先生方、聖路加国際大学図書館、また学会事務局の皆様がたくさんのご協力をいただき、原稿をまとめることができました。ありがとうございました。(広報委員会:竹森志穂 佐居由美 大橋久美子 瀬戸山陽子 松尾尚美)

ニュースレター発行や様々な情報をメールリストでお伝えします。

メールアドレスが変更された場合は、学会事務局 slnr@slcn.ac.jp までご連絡ください

一般社団法人 聖路加看護学会ニュースレター No.51

- ▶ 発行：2020年11月30日
- ▶ 編集：広報委員会（竹森志穂 佐居由美 大橋久美子 瀬戸山陽子 松尾尚美）
- ▶ 連絡先：〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内

[学会ホームページ] <http://slnr.umin.jp/>